

www.foro.jp

foro フリースクール フォロ

News Letter

いつもご支援ありがとうございます。おかげさまでフォロは、およそ30人の子どもたちと4度目の春を迎えました。子どもたちでつくる場は、それぞれに悩んだりもめたりしながらも、いろんな希望や考えがいつもいつも溢れかえり、エネルギーでいっぱいです。ここ半年くらいは財団の支援もあって、活動の幅も広がりました。しかし一方で、大阪府が「不登校を3カ年で半減」させるという政策を今年度より実施するので、不安と心配も大きいです。これについてはフォロも市内の8団体とともに市民連絡会を結成し、学校と距離をとりたい子どもや親たちが、いま以上に追いつめられないようにと動いてきました。課題は尽きないですが、これからも子どもたちと考えながら、場づくりをしていきます。これからもよろしくお願いします。

2005年5月1日

特定非営利活動法人フォロ
代表理事 花井紀子



テニスレッスン(大阪府青少年活動財団支援事業)

最近のフォロの活動から

「ボイスタイム(声優・アニメの時間)」=5時間以上。「ハンドクラフト(手づくりを楽しむ時間)」=3時間以上。……毎週こんなに長時間集中してやっている活動もあります。高校受験を決め個人学習をしている子が「気がついたら2時間経っていた……」なんてこともしょっちゅうです。フリースクールでは時間の使い方もすべて子どもたちが考えていきますが、既成の枠にとらわれなくて、めいめいの「やってみたいこと」にたっぷり時間をかけられることの良さをしみじみと感じます。

また昨年秋から、大阪府青少年活動財団より活

動支援をいただいています。おかげで、今まではできなかったこと、あきらめていたことが実現し、それが楽しみでフォロに通ってきている子もいます。テニスレッスンはコーチに教えていただけたので7回通った人もいます。スタジオを借りてのアフレコ&バンド練習などは、費用を気にしないで思いきって練習できたし、七宝焼きの工房では専用の焼き釜があって、作品がすてきなお土産になりました。

年度末には初めての「お別れ会」をしました。3年半に渡って支えてくれたスタッフとボランティアのふたりと年度末でお別れすることになり、子どもたちからねぎらいの会をしたいとの声が出て、手づくりのパーティとなりました。

大阪府の不登校政策について

今年度より、大阪府実施の「3カ年で不登校を半減」政策について、私たちは子どもたちや親の声をきちんと聴いて政策を考えてもらえるよう動いてきました。これをテーマに、3月の「Talk-inフォロ」では子どもたちが公開討論会を開催。途中からは府教委の職員の方も参加され、マスコミ取材も来ました。こういう場で自分たちのつらい経験を話すのはたいへんなことです。ですがその後も、連絡会と府教委との懇談の場にも出席し話し合いを続けている子もいます。子どもたちの訴えがきちんと届くことを祈ります。

以下、フォロで行なったアンケートに寄せられた、政策に関しての子どもたちの声です。今回の政策には地域から募る「不登校支援協力員」の配置がありますが、そういった支援や家庭訪問についてどう思うかを中心に答えてもらいました。

★家へ来る、電話をかけてくるなど、本人が望んでなければ、してほしくない。【16～18歳】

★先生が家に来るのは、対応がめんどくさいので、やめてほしかった。ほっといてほしい。この政策が実施されて、知らない人が毎日、家に来るのはうっと思ってしまう。【中学生】

★教室でなくても勉強できるような支援は、あっていいと思う。フリースクールに通うお金の支援もしてほしい。この政策で、助かる人が多ければいいけど……。この政策に使うお金を減らして、もう少し環境(自然を育てるとか)に使ってほしい。◎結論→あたたかく見守って！【中学生】

★先生が家に来て、いろんなことを聞いてきて、うざかった。今後、支援はとくに何も望まない。私たちの気持ちを何も知らないのに、こういうことをされてもこまる。ってか、プライバシーの侵害じゃ～!!【中学生】

★支援って何？ 今までに「こんな支援があって助かった」というのは、とくになし。政策に使う1億円、もったいない。家庭訪問はやめてほしい。【小学生】

★今までの「支援」のなかで、わざわざ先生が家に来ることがイヤでした。正直、自分は自分で楽しくやっているので、変な気はつかわないでほしい。こんな支



連絡会のHP

http://www.geocities.jp/futoko_osaka/

援があってよかったというものは、とくにありません。今後も、何も望まないし、すべて断りたい。不登校の経験がないかもしれない人に、何を話してもわからないと思うし、理解できないと思う。まず、学校に行かせよう と思うことじたい、不登校になった考えを理解しようとしていると思えない。とりあえず、ほっとけ。あくまで、自分の意見ですが。【16～18歳】

★イヤだったのは、先生が家まで来て、学校につれて行こうとした。フリースクール・フォロがあって、よかった。(学校の)先生もほっといてくれて、昼から行ったら友だちもふつうにしゃべってくれるのもよかった。先生とか友だちとかでも、家に来て学校につれていこうとするのは、断りたい。とりあえず、今はほっといてほしい。(支援協力員が)家に来るなんて、めいわくだし、イヤだからやめてほしい。【小学生】

★フリースクールがあってよかったです。それと、学校のなかにカウンセリング室という部屋があって、教室に行けないときにはカウンセリング室で先生と話をしたり、ほかに教室に行けない人たちと遊んだりできたので、自分がいれる場所があってよかったです。反対に、学校の先生が突然(家に)来るのは、困った。前に先生が突然来たことがあって嫌だったので、地域の人が来るのは断ります。この政策で、どうして不登校を減らそうと思ったのかを知りたい。学校がしんどくて不登校になっているのに、学校に戻そうとするのは不登校の人にとっては、しんどいと思う。【中学生】

★先生が家に来て、ほんとに困った。フリースクールがあって、ほんとによかった。やってほしい支援は、不登校の人にフリースクールをすすめること。学校に行きたくない人を無理につれて行くのは、よくない。【16～18歳】

スタッフから

●毎日新鮮!

早いもので、私がフォロのスタッフになって2年、ボランティアとして関わっていた期間も含めると3年余りが過ぎました。この間、多くの方々に支えていただき、本当に感謝しています。何よりも、子どもたちと過ごす日々が3年経っても変わらず「毎日新鮮!」なので、びっくりしています(スーパーの広告みたいですね)。私はよく、「なぜフォロのスタッフを続けているの?」と聞かれるのですが、とにかく「毎日新鮮!何が起るかわからない!楽しいから!」というようなことしか言えません。それに付け加えれば、「自分らしくいることができるから」でしょうか。

私はあまり自分から進んで話しかけたり、輪に入っていったりしません。それというのも、ずばり苦手だからです。フォロには話しかけたりするのが好きな子どもやスタッフもいれば、そうじゃない子どもやスタッフもいます。つまり、誰でも自分らしくいることをみんなが自然と認め合える居場所でありたいと思っています。今まで感じてきた、オトナ=『えらそう』『弱みを見せない(隠そうとする)』『都合がいい』というイメージには染まりたくないし、まして子どもたちからそんなふうに思われるなんて絶対いやだ!と思って、私はとにかく「そのまんまの自分」でフォロにいます。

なぜ、「~でなければならない」という『常識』が世の中には数多く存在してしまうのでしょうか。子どもは「集団で仲良く遊ばなければならない」「学校に行かなければならない」など、大人は「働かなければならない」「子どもの見本になるようにしなければならぬ」などなど……。何の根拠もないのに、いつのまにやら刷り込まれてしまった世間の常識。たしかに、右にならえと言われて、右にならえれば安心です。でもその安心感は、はっきりと見えないので、次に左にならえと言われれば、考えもせずとっさに合わせてしまう。それってすごく不安定で、怖いことだと思います。

ときにはこんな自分がきらいになってしまうこともあるけれど、自分から離れないで、自分の言葉で、自分の足で、のんびりゆっくり子どもたちと毎日を過ごしていこう、とスタッフ3年目を迎えて改めて考えています。(スタッフ・大浜裕美)



ギター&ドラムのスタジオ



インスタントラーメン博物館にて



フォロ通信を発行



不登校政策についての討論会

新任スタッフです。

5年弱続けた仕事を辞めて、昨年の夏から神戸フリースクールのスタッフとして半年間子どもと接してきました。仕事を辞めた理由は学校の教員の資格を取る勉強をしようと思ったからです。子どもが好きだから、子どもとすごしていると新しい発見があるから、子どもと過ごす時間は楽しくて充実しているから、子どもと接していくことが仕事であるという職業、つまり教員になりたい。僕のなかでごく自然な発想であり、仕事を辞めていくことに対する抵抗感はありませんでした。退職後通信制の大学に入学し、今現在も教職課程の勉強を続けています。

入学後、子どもとかかわれる仕事を探すために通った神戸のハローワークで、神戸フリースクールの求人を見つけたのがフリースクールとの最初の出会いでした。不登校の経験がない僕は、不登校という言葉自体に弱さ、暗さといったマイナスのイメージを持っていました。が、フリースクールで出会った生徒はみんな楽しそうで生き生きとしていました。不登校という言葉へのイメージ、フリースクールという居場所へのイメージがあつというまに大きく変わっていった最初の数日のことは今でも鮮明に覚えています。

僕は退職後すぐに仕事を探し始めたわけではなく、神戸フリースクールでお世話になるまでのあいだ、数カ月間無職の時期がありました。べつに落ち込んでいたわけでもなくあせっていたわけでもなかったのですが、だからといって何かに一生懸命に取り組むわけでもない、ゆっくりした時間をすごしました。

目標を持って転職を決意したはずなのに、いざとなると「本当にそれでいいのか」「本当に自分にそういう仕事が向いているのか」といろいろ考える時間でもありました。まわりの人にアドバイスされたり励まされたりもしましたが、そんな言葉よりハローワークで知り合ったおっちゃんのおしゃべりなど何気ないやり取りのほうが元気の源になったような気がします。

「わしはもう年じゃが、自分を安売りはせん！ が、明日食うためにこの仕事をする」と言って日雇いの軽作業の仕事の面接の申し込みに行くような、おもしろいおっちゃんでした。神戸フリースクールで半年間お世話になったあと、これまた運良く（フォロにいれることに本当に感謝しています）フォロのスタッフとしてフォロという居場所に通い始めたいまも、充実したフォロでの生活を楽しみながら、一方で日々悩んでいるところです。

人間は生きていくなかで多くのことに悩みます。ときには挫折したりもします。逆に、ときには何も考えることをしなかったり。前に進んだり休んだりちよつとさがつたり、すべてが貴重な時間であり、その人間にとっての財産です。できの悪い僕は、誰かにアドバイスしたり、人生観が変わるような言葉をかけたりすることはできません。だからフォロで出会ったみんなとはいっしょに悩み、考え、いろんな活動をし、多くの考え方に触れていきながら人生という旅を続けていきたいなと思っています。

(スタッフ・今村圭一郎)



総会のお知らせ

6月5日(日)午後第4回通常総会があります。

NPO会員のみなさま、ぜひご予定下さい。

※詳細は別途案内をお送りします。

フォロを応援してください

今回、不登校政策に動きがあつて、あらためて学校の外に子どもたちの場があることの必要性を感じています。フォロはこれからも、どんな子ども・若者にも通じる活動を模索していきたいと思っています。趣旨に賛同いただけます方、どうぞNPO会員もしくは支援会員になってフォロを支えてください。

◎郵便振替口座 00900-1-25564

加入者名 フォロ

譲ってください

野球などのスポーツ用具、デザートフォーク(ふぞろいOK)、スリッパ、ミシン、調理器具(おたま、ケーキ型) etc...

Foro News Letter 第10号

発行日 2005年5月1日

発行者 特定非営利活動法人 フォロ

〒540-0025 大阪市中央区徳井町1-1-3

TEL06-6946-1507 FAX06-6946-1577

mail to: info@foro.jp

URL http://www.foro.jp